花王

ベトナムで清潔・衛生習慣定着に向けたプログラムを開始

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献すべく、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「学校衛生プロジェクト」「楽しい手洗い教室」の4つの取り組みからなる「ベトナム衛生プログラム」を開始した。

10月15日には、ベトナムのハノイ医科大学にて、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」に関し、ハノイ医科大学、神奈川県立保健福祉大学、東北大学が署名し、関係者とともに調印式を行った。これらの取り組みは、ベトナム・日本外交関係樹立45周年を記念する事業として認定されている。

今回ハノイ医科大学にて調印式を行った取り組みのうち、「衛生管理リーダー育成プログラム」は、ハノイ医科大学病院、東北大学、聖マリアンナ医科大学と協働で実施する。感染予防・衛生習慣の定着をめざし、感染対策のシステム化を図ると同時に、医療従事者や学生向けに、感染対策や衛生管理に関するセミナーを行う。将来的には、そのほかの日本の大学や大学病院の参加も検討している。

また、「衛生奨学金制度」は、ハノイ医科大学の卒業生を対象とし、神奈川県立保健福祉大学の大学院留学への奨学金を提供する。ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していく。

そのほかにも、次世代の啓発を目的とした2つの取り組みを実施する。

1つは、ユニセフが行っている「学校衛生プロジェクト」で、2016年から支援に取り組んでおり、学校の衛生環境改善のためのトイレや手洗い設備の設置や子どもたち向けの手洗い啓発を行っている。

さらに、2019年からは「楽しい手洗い教室」を展開する。衛生意識の向上をめざし、将来を担う子どもたちに正しい手の洗い方を伝えていく。

花王ESG部門統括のデイブ・マンツ氏は、「経済発展著しいベトナムにおいて、花王の知見を活かし、清潔・衛生習慣の定着に貢献できることを、大変うれしく思っている」とコメントしている。

花王ビオレ

高校生のための肌の授業第1弾を開講

花王のスキンケアブランド「ビオレ」では、普段教えてもらえる機会の少ない、肌の基礎知識や正しいスキンケアの方法、メークの落とし方について高校生に伝授すべく、「肌」をテーマにした授業を日本全国でスタートし、記念すべき第1弾を、10月18日、武蔵野大学附属千代田高等学院で実施した。

今回の授業には、約30名の生徒が参加し、肌についての授業の後、ビオレのメーク落とし「ピュアスキンクレンズ」「ふくだけコットン うるおいリッチ」などを使い、実際に授業で学んだことを活かしながら自分の肌で体験した。

参加した女子生徒は、「メークは友達やお母さんから教えてもらえるが、メーク落としは教えてもらう機会がないので、正しいやり方を知ることができて勉強になった。友達と一緒に体験できたので、楽しかったし新鮮だった」と感想を述べた。

また、実際に生徒へ授業を行った先生は、「座学ではなく実際にやってもらうことで、生徒たちが楽しそうに授業を受けてくれた。私が高校生の時にも、こんな授業があればとても勉強になると思った」と嬉しそうに語った。

The Voice

ユニファースト
取締役副社長
橋本 敦 氏

化粧ポーチOEMなどが好調で5年連続の2ケタ増収増益へ

1981年に縫製・シルク印刷加工で事業をスタートしたユニファーストは、化粧ポーチやトートバッグなどの縫製品を中心としたノベルティグッズOEMを展開している。

同社では、2014年から毎年2ケタの増収増益を継続しており、18年の売上高は14年対比で2倍の26億円で着地する見通しで、売上総利益は2・5倍に達するペースで伸長している。

橋本副社長は、生産管理・デザイン・営業の各部署を組織化したことによる社員1人あたりのパフォーマンス向上と、化粧ポーチOEMの受注拡大が業績拡大の原動力になったと語る。

「社員は今年数名増えたぐらいで、4年前と大幅に変わっていない。1人で仕事を抱える社員が多かったが、今ではチームごとに相談しながら仕事を進められる環境になり、パフォーマンスが向上している」

ユニファーストでは、「つくりたいを形にする会社」を経営理念に掲げ、既製品にはない全く新しいノベルティグッズを作りたいという依頼にも柔軟に対応し、「素材から今までにない面白いものを提案するほか、臨機応変にカスタマイズできる対応力が好評で、化粧品業界のお客様からの受注が増えている」という。

今後の事業方針としては、同社が強みとする「対応力」「生産ネットワーク」の強化を推進し、付加価値の高いノベルティグッズの提供を目指していく。

対応力に関しては、営業力の強化とチームで顧客に対応する体制の整備に努めていく。

生産ネットワークに関しては、ASEANでの生産拠点の開拓に注力する。既にベトナムとカンボジアではスポーツバッグのOEM生産を開始し、今後は化粧ポーチも提供できる拠点を構築していく。

「お客様が言葉にできなくても欲しいと思っているものを形にすることが当社のすべきことであり、そのためには経営者も含めて全員のパフォーマンスを高める取り組みを推進していきたい」（之）

（禁無断転載）ⓒⓇ
本紙の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、堅く禁じられております。
本紙からの複写を希望される場合は、出版者著作権管理機構（JCOPY）（03-3513-6969）まで必ずご連絡下さい。